



晴海地区将来ビジョンの実現に向けて【平成30年度】

1. 晴海地区将来ビジョン推進会議のこれまでの取組について
2. 晴海地区将来ビジョン推進会議の平成30年度の取組について
3. 晴海おもてなし実行委員会による具体的な取組の実施（報告）
4. 今後の晴海地区将来ビジョン推進会議について
5. 今後の晴海地区のまちづくりについて

【参考】晴海地区将来ビジョン推進会議の開催内容について

【平成31年3月4日】
晴海地区将来ビジョン推進会議

1. 晴海地区将来ビジョン推進会議のこれまでの取組について

晴海地区将来ビジョン推進会議（以下「推進会議」）では、平成26年12月の『晴海地区将来ビジョン』（以下「将来ビジョン」）策定以降、将来ビジョンの実現に向けた取り組みの適時適切な情報共有と、地域全体の向かう方向性についての意見交換を行ってきました。

また、東京2020大会後の晴海地区では約12,000人ももの人口増が見込まれることから、地区全体のコミュニティ形成を重要な課題ととらえ、地域の方々が主体となる「ソフトの具体的な取組」について検討を進めてきました。

平成29年度には推進会議の構成員を中心に、晴海の人々のネットワークづくりを目指した取組の実行組織として「晴海おもてなし実行委員会」を立ち上げ、「首都大学東京」、「晴海をよくする会」や「学生団体おりがみ」等の主体と連携し、メンバー自ら企画・運営を行いました。取組としては、晴海内外の人々を対象に「晴海を知る、知ってもらう」「東京2020大会を迎える」をテーマにまちを巡り体感し、魅力を発見する企画として、「ブラハルミ」を実施しました。こうした活動を通して、ネットワークをつなぎ広げ、多様な団体との連携や活動の担い手を増やしていきながら、継続していくとともに、晴海に住み、働く多様な層が主体的に地域課題解決に取り組むことができるまちづくりを推進していく必要があるとまとめました。（平成29年度資料P5-1参照）

晴海のまちの形成（ハード面）、地域全体のコミュニティ形成（ソフト面）については、饗庭伸教授の分析・提案等を踏まえ、引き続き晴海地区将来ビジョン推進会議にて議論・検討等を行っていく。

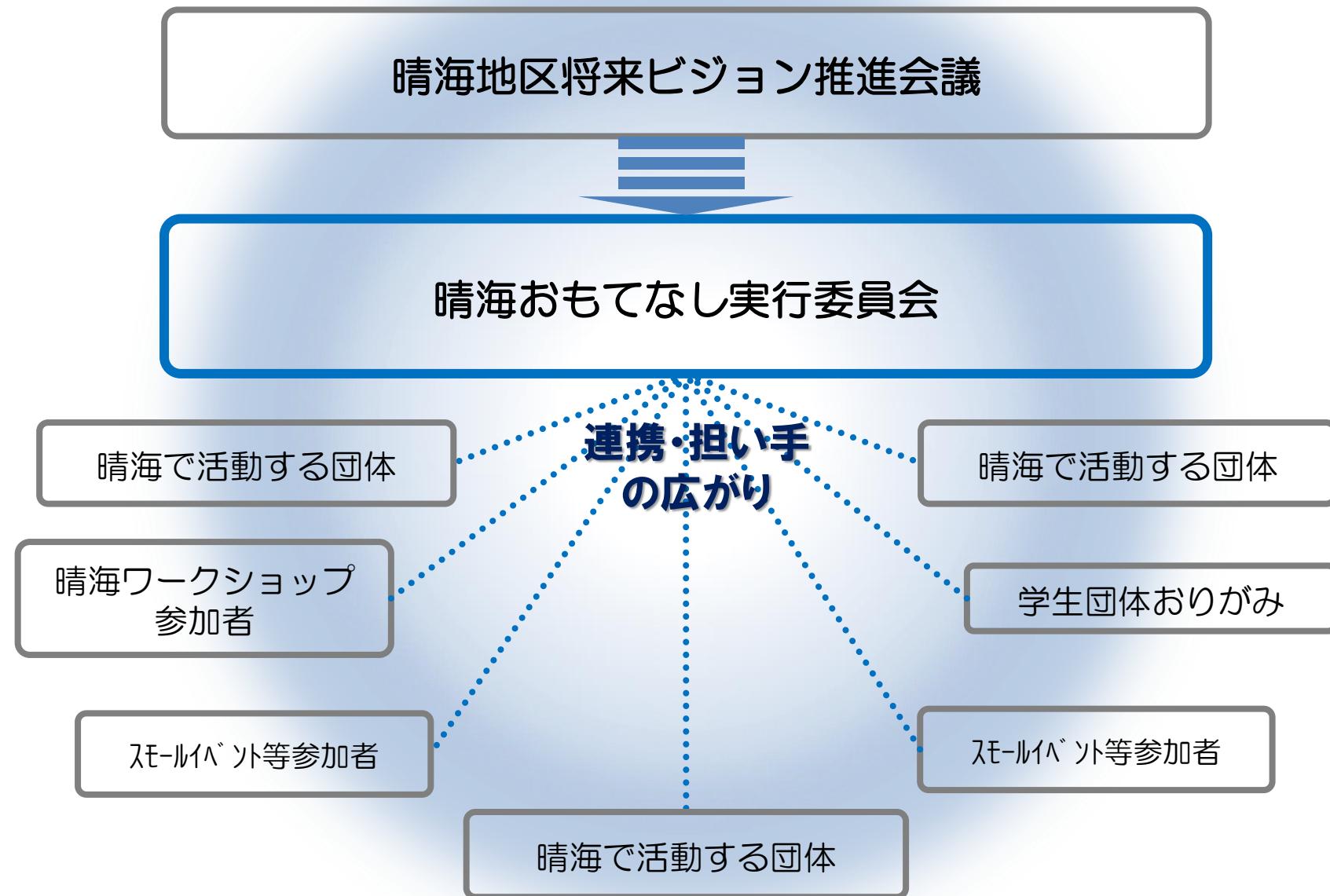
（1）晴海のまちの形成

ハード整備については、五丁目（東京2020大会終了後の選手村跡地・ほっとプラザはるみ等）及び二丁目（工場跡地・都有地）、三丁目（検討エリア）、四丁目（都有地等）における再開発等が、晴海地区将来ビジョンの実現に向けた、より良い計画となるように継続して議論を行っていく。

（2）地域全体のコミュニティ形成に向けて

ソフト事業については、晴海おもてなし実行委員会を中心として、東京2020大会の開催を契機に、晴海地区に関わる若い世代のネットワークをつなぎ広げ、多様な団体と連携し活動の担い手を増やしていきながら継続していく。

このことを通じ、晴海に住む、働く多様な層が主体的に地域課題への解決に取り組むことができるまちづくり（プロアクティブ・コミュニティ）を推進していく。



2. 晴海地区将来ビジョン推進会議の平成30年度の取組について

平成30年度は、将来ビジョンの実現に向けた整備の進捗状況について（以下「ハード面」）、東京都が計画しているBRT計画など交通・環境に対する取組、中央区が早期実現を目指している文化教育施設の誘致や地下鉄新規路線の導入など、にぎわいあるまちづくりの実現に向けた区の考え方、晴海五丁目の小中学校や晴海四丁目の公共施設の計画内容を共有し、これらの計画が地域の発展につながるよう意見交換を行いました。さらに、中央区が計画しているほっとプラザはるみのリニューアルでは、施設構成や運営体制の考え方などについて議論を行いました。

また、地域全体のコミュニティ形成に向けた取組について（以下「ソフト面」）、「晴海おもてなし実行委員会」を中心に、地元の恒例行事を広く知ってもらうため、3年に一度開催される住吉神社例大祭を取材し、タブロイド誌を発行しました。さらには、東京2020大会に向けておもてなしの輪を広げることを目的に「フラワーアイランド晴海2020」を実施し、人々のネットワーク作りを取組ました。

将来ビジョン策定から4年以上が経過し、議論の主たるテーマがハード面からソフト面へシフトしていく中で、改めて推進会議の運営方法や構成員の体制等について、アンケートの実施や事例勉強等を通じて検討を行いました。

2-1. 晴海地区将来ビジョンに係る進捗状況

将来ビジョンに係る広域交通、公共・公益施設等の整備の進捗状況について、情報共有・意見交換を行い、議論を進めてきました。

ビジョン項目	内容	2018年度				2019年度			
		平成30年度				平成31年度			
広域交通	BRT ターミナル整備 (二丁目バスターミナル) (五丁目マルチモビリティ ステーション)			基本設計				実施設計	
	環状第2号線			暫定道路開通 ↔				地上部道路開通 →◎	
	都心・臨海地下鉄構想							検討調査 ←	
公共・公益施設	学校(中・小) (五丁目)			基本設計				実施設計	
	公共施設(認定こども園、特別出張 所、おとしより相談センター、保健 センター、図書館) (四丁目)			基本設計				実施設計	
	ほっとプラザはるみ リニューアル			地元検討				改修設計	
スポーツ・健康	晴海ふ頭公園・緑道公園							工事	
環境	選手村地区エネルギー事業			水素ステーション設計・仮設水素ステーション整備				パイプライン敷設	
防災	臨港消防署			工事				◎ 竣工	◎ 開設
その他 (個別開発)	晴海五丁目西地区			基盤整備工事					
	晴海二丁目 (パークタワー晴海)			建築工事					◎ 竣工

☆具体的な議論の内容

【BRT】

- ・事業計画の概要(運行計画等)について

【晴海新設小学校中学校】

- ・コンセプトと共に地域開放について

【晴海四丁目公共施設】

- ・計画概要及び今後のスケジュールについて

【ほっとプラザはるみリニューアル】

- ・施設構成や運営体制の考え方などについて

【晴海ふ頭公園・緑道公園】

- ・整備方針及び工事スケジュールについて

【水素ステーション】

- ・大会中及び大会後の施設配置や事業内容等について

【晴海五丁目西地区】

- ・まちびらき後の管理体制について

2-2. 今後のビジョン推進会議の運営方法や組織体制についてのアンケート

将来ビジョンの策定から3年以上が経過した中、改めて今後の推進会議の運営方法や構成員の体制等についてアンケートを実施した。

(1) アンケート調査の概要

- ・ 調査の目的 : 「晴海地区将来ビジョン推進会議」の円滑な運営を行っていくための検討材料とする。
- ・ 実施期間 : 平成30年5月13日～5月25日 (13日間)
- ・ 調査対象 : 晴海地区将来ビジョン推進会議 構成員
- ・ 調査内容 : ビジョンのニーズ、まちづくり(ハード)への反映、現在の取組体制、新たな枠組みの形成に向けた取組体制、会議の進め方、雰囲気、開催頻度、構成員の人数、自由意見 等
- ・ 回収率 : 配布総数 : 16通 , 回収総数 : 11通 (回収率約 69%)

(2) アンケート調査の結果 (抜粋)

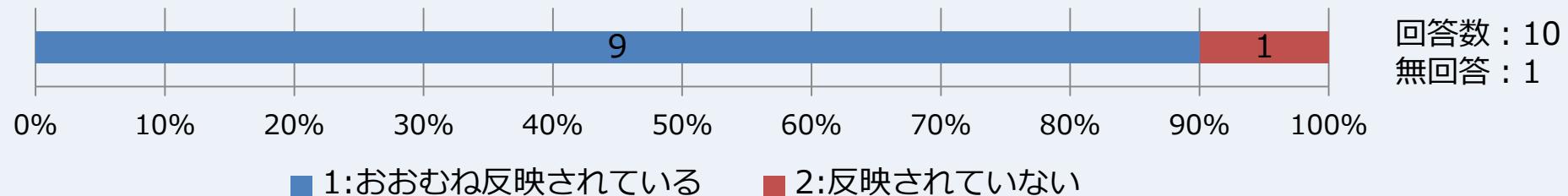
○ビジョンのニーズについて

1. 「晴海地区将来ビジョン」策定から3年以上が経過し、内容が今のニーズに合っていると思いますか。



○まちづくりへの反映 (ハード面)

2. 推進会議で検討されていることが実際のまちづくりに反映されていると思いますか。



○現在の取組体制 (ソフト面)

3. 「晴海おもてなし実行委員会」が立ち上がっていますが、ソフト事業の取組を実現していくにあたって現在の体制に満足していますか。



(3) アンケート調査の結果 自由意見(抜粋)

活動への意見

- ・ 他組織との情報交換
- ・ 外国人居住者等へのマナーレクチャー
- ・ 交通環境の改善に向けた先進技術の導入検討
- ・ エリアマネジメントの検討
- ・ ビジョンの実現に向けた先行事例の収集
- ・ 今後のイベント活動の検討
- ・ ソフト事業の人材発掘・育成

体制への意見

- ・ 新たな構成員の加入
- ・ ルールの明文化（人選・運営方法等）
- ・ 開催日時の検討
- ・ 代表者の必要性
- ・ 東京都、組織委員会の出席
- ・ 検討組織の体系

(4) アンケート結果に基づく今後の検討方針

活動関連の意見について

アンケートの意見を踏まえ、おもてなし実行委員会と共有し、課題解決に向けて今後の活動に活かす。

体制関連の意見について

新たな枠組みを検討していく中でどのような体制としていくのが良いのか議論していく。

「エリアマネジメントの検討」という意見があったことから、平成30年度第2回会議では、以下の3つのエリアマネジメント事例について勉強を行いました。

- ① 企業と住民で行う「まちにわ ひばりが丘」
- ② 企業のみで行う「新虎通りエリアマネジメント」
- ③ 住民のみで行う「小杉駅周辺エリアマネジメント」

事例を勉強した結果・・・

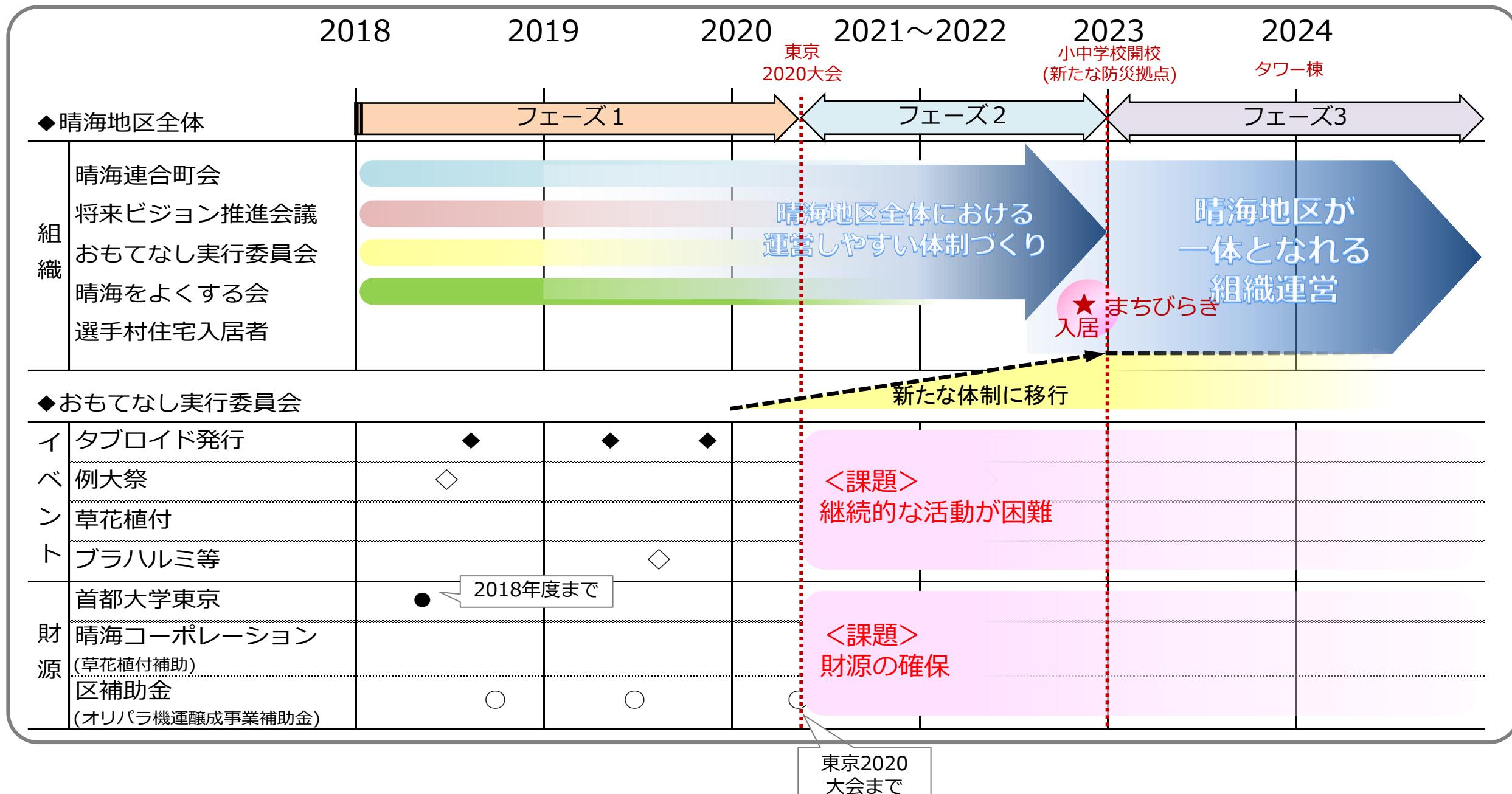
①②の事例は企業の支援、③の事例は商店街の支援により運営が成り立っていることがわかった。

以上のことを踏まえ、晴海地区に相応しい運営しやすい体制づくりに向けて検討を行うこととなった。

2-3. 運営しやすい体制づくりについて

アンケート調査や事例研究を通じ、晴海地区に相応しい運営しやすい体制づくりに向けて検討を行いました。晴海地区に関わる人々との連携によって実現する良好なコミュニティを形成していくために、晴海地区における「組織」とおもてなし実行委員会における「イベント」「財源」について、フェーズ1（現在～東京2020大会）、フェーズ2（東京2020大会～学校開校）、フェーズ3（学校開校～）ごとに整理し、晴海地区における今後の課題を明らかにし、それらの課題の解決と、将来にわたって晴海地区が一体となるために組織づくりをしていく必要があることを下表のようにまとめました。

晴海地区コミュニティの今後のフェーズ



3. 晴海おもてなし実行委員会による具体的な取組の実施（報告）

晴海内外の人々を対象に「晴海を知る、知ってもらう」ため、3年に一度の住吉神社大祭を晴海おもてなし実行委員会を中心としたメンバーで取材し、タブロイド紙にまとめ、晴海地区内の住戸に配布した。また、これまで晴海コーポレーションが主催していた「フラワーアイランド晴海2020」を晴海おもてなし実行委員会で引継ぎ、草花を植え付け・管理を行うことで、東京2020大会に向けて、おもてなしの輪を広げる活動を開始した。

（1）住吉神社大祭取材・タブロイド誌発行

目的

地元の人に、地域に根付いた行事の大祭についてまとめたタブロイドを読んでもらうことで、晴海を知ってもらい、まちに愛着を持ってもらう。

取材の概要

- 1) 日時 平成30年8月3日(金)～5日(日) 8:00～18:00
- 2) 会場 晴海、勝どき、月島、佃エリア
- 3) 対象 住吉神社大祭運営者、大人神輿・こども神輿参加者、大祭見物客
- 4) 内容 住吉神社大祭の前日準備から大祭の最後までを取材し3年に1度の大祭の魅力を記録する。
- 5) 取材者 晴海おもてなし実行委員会、首都大学東京饗庭研究室



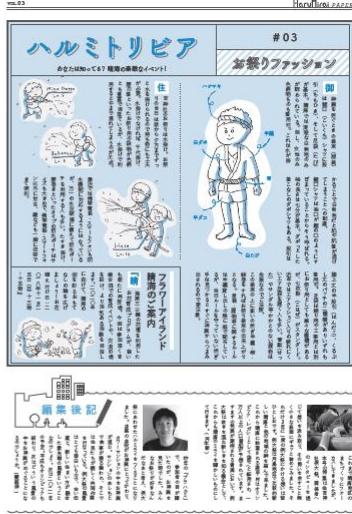
8/3 準備取材

8/4 大人神輿取材

8/5 休憩所取材

編集の概要

- 1) 編集期間（準備含む）
平成30年4月17日(火)～
10月16日(火)
- 2) 配布数
約6,500部
- 3) 配布先
各マンション自治会
晴海トリトンスクエアなど



（1-1）神輿参加者等の感想

○意見、感想等

- ・皆と親睦を深めることができて良い。
- ・晴海の伝統を体験し、学ぶことができた。
- ・準備にも長い時間がかかっていることを学んだ。
- ・タブロイド誌を読んで、次回は参加したいと思った。

（1-2）イベントの振り返り

○企画内容について

- ・大祭をタブロイド誌という形で記録をし、残すことができた。
- ・大祭取材をすることで、地域の行事に深く入り込むこと新しい体験をすることができた。

○運営体制について

- ・取材側が自治会等既存の体制と重なり、広がりが限定的になってしまった。
- ・メールにて取材者の呼びかけを行ったが人数を集めることが出来なかった。

○資金面について

- ・首都大学東京の饗庭研究室からの援助や行政からの補助金で、活動資金を確保できたが、継続的に活動するには財政面に課題がある。

（1-3）今後の展開について

○運営体制について

- ・大祭の歴史を知って貰うことで、祭りに興味を持つ住民を増やすと共に、地元への愛着を持つことで、新たな担い手を確保したい。
- ・配布したタブロイド誌によって、おもてなし実行委員会の活動が認知され、今後、担い手が増加することに期待したい。

○資金面について

- ・補助金が無くても活動を継続できるように、資金の確保に向けてなにをすべきか検討する必要がある。

(2) フラワーアイランド晴海2020

目的

花と緑を育て、2020年に向けてまちを彩るおもてなしの輪をひろげる。
また、地域住民がまちに関わる機会を設けることで、コミュニティ形成や、本委員会の取組の新たな担い手探しをする。

活動の概要

- 1) 期 間 2018年11月～2019年6月（予定）
植え付け 2018年11月25日(日)
- 2) 会 場 晴海第三公園
晴海トリトンスクエア サウス・トリトン・パーク
- 3) 募集対象 晴海在住の個人、グループ、家族
- 4) 内 容 草花の植え付け、水やり、除草、花がら摘み等
- 5) 募集方法 ①参加登録会 10/13(土) への登録用紙の持参
②電子メール ③各マンション自治会から
- 6) 参加者 12組 約30名



晴海おもてなし実行委員会（左側）



(2-1) 参加者の感想

○意見、感想等

- ・近隣の方と交流できると期待して申し込んだので、今後も交流を深められる機会があると良い。
- ・野菜や、稲も育てられるとより良い。
- ・土を触る機会が無かったので楽しかった。
- ・今回をきっかけにして、様々なイベントに参加してみたい。

(2-2) イベントの振り返り

○企画内容について

- ・花植をしている参加者は皆充実した様子で、表情が豊かになっていた。
- ・住民主導で始めたことから、参加しやすい雰囲気作りができ、今後ネットワークの構築が期待できる。

○運営体制について

- ・担い手がまだまだ少なく、参加者を増やすためにも、まずは企画側の増員が必要ではないか。

○財政面について

- ・苗以外に提供を得られなかったことで、植え付け後に参加者同士の交流の場を設けることができなかった。

(2-3) 今後の展開について

○企画内容について

- ・月に1回程度の水やり及び育て方講座等のイベントを開催する。

○運営体制について

- ・フラワーアイランドの参加者が今後の運営にあたるよう誘導する。
- ・交流の場を継続的に設け、新たな担い手を発掘する必要がある。

○資金面について

- ・補助金が無くても活動を継続できるように、資金の確保に向けてなにをすべきか検討する必要がある。

4. 今後の晴海地区将来ビジョン推進会議について

(1) 晴海のハード面の整備に向けて

晴海地区将来ビジョンの実現に向け、ハード整備の進捗について情報共有をしながら、より良い計画となるように継続して議論を行っていきます。特に、文化教育施設の誘致、地下鉄新規路線の導入については、区において早期実現を目指していることから、当会議においても情報共有しながら推進に協力していきます。

(2) 地域全体でのコミュニティ形成に向けて

東京2020大会を迎えるにあたって、推進会議の有志によって組成された晴海おもてなし実行委員会を中心に、引き続きスモールイベントの企画・実施を通じて、晴海地区に関わる人々のネットワークをつなぎ・広げるとともに、多様な団体と連携していきます。

こうした活動を今後発展させていく必要がありますが、人的・資金的観点から継続の困難が課題となっています。継続的に活動するためにも、活動の担い手の確保及び安定した収入を確保するためのスキームを検討していきます。

推進会議での議論の主たるテーマがハード面からソフト面にシフトしていく中で、今後の会議のあり方を併行して検討してきましたが、この視点もあわせて、HARUMI FLAGまちびらき後の晴海全体の人々のネットワークづくりについて引き続き検討を重ねていきます。

○ 饗庭教授コラム

社会学の基本的な概念に「コミュニティ」と「アソシエーション」という言葉があります。コミュニティは地区の広がりによって結びついた人々のつながりを、アソシエーションは目的によって結びついた人々のつながりを意味します。晴海では町会が「コミュニティ」、おもてなし実行委員会が「アソシエーション」です。はっきりとした目的を持たないコミュニティでは人々のつながりが弱まってしまおうという問題を抱えていますし、地区のつながりを持たないアソシエーションは公平さや代表性といった点から欠陥を持つことがあります。どちらにも出来ることと出来ないことがあり、二つはお互いに補い合う関係にあることが望ましいと考えられます。

おもてなし実行委員会は、ブラハルミという小さなイベントを成功させ、タブロイド誌を発行し、フラワーアイランドのプロジェクトも実現させ、これらを通じて、確実な人々のつながりが形成されました。アソシエーションのつながりは、まだまだ広がる可能性があると思いますが、一方で、このつながりはコミュニティをどう補っていくのだろうか、という可能性も考えていきたいものです。

タワーマンションが林立する都市のコミュニティとアソシエーションがどうつくられていくのか、晴海では日本の中でも最先端の取り組みが続いています。来年度の取り組みにも大いに期待をいたしたいと思います。 (首都大学東京 饗庭 伸)

5. 今後の晴海地区のまちづくりについて



<p>つながる</p>	 <ul style="list-style-type: none"> 燃料電池バス (イメージ) 連節バス (イメージ) <ul style="list-style-type: none"> ・環状第2号線暫定道路開通 (2018年) ・環状第2号線地上部道路開通 (2019年) ・BRTのプレ運行開始(2020年) ・BRTの本格運行開始(2022年～) ・マルチモビリティステーションの供用開始 (2022年) ・環状第2号線本線開通 (2022年) ・地下鉄新路線の導入 ・文化・交流施設の誘致
<p>交わる</p>	 <ul style="list-style-type: none"> ・五丁目小中学校開校 (2023年) ・四丁目公共施設開設 (2023年) ・私立学校の誘致
<p>暮らす</p> <p>持続性のあるまちづくりの実現に向けて</p>	 <ul style="list-style-type: none"> ・ほっとプラザはるみリニューアル (2023年) ・HARUMI FLAG まちびらき (2022年～) 
<p>憩う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・晴海ふ頭公園、晴海緑道公園の整備 (2019年～)
<p>支える</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨港消防署 本署庁舎竣工(2019年) ・水素ステーション(プレゼンテーション事業)の実施 (2020年) ・水素ステーションの運営開始 (2022年)
<p>選手村レガシー</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・選手村レガシーの活用 (晴海地区全体への波及)

晴海地区将来ビジョンの実現

※ 記載されている年度については、各事業主体が現段階で公表されている事業予定によるものです。

晴海地区将来ビジョン推進会議の開催内容について

	開催日時	開催場所	議事
第1回	平成30年5月13日	ほっとプラザはるみ	(第1部) 将来ビジョンに係る今後のスケジュールについて等 (第2部) フラワーアイランド晴海等について (第3部) 第三部の進め方について
第2回	平成30年6月24日	アート晴海	(第1部) 選手村地区エネルギー事業等について (第2部) おもてなし実行委員会の活動報告 (第3部) 推進会議 (第三部) アンケート結果について
第3回	平成29年9月18日	晴海区民館	(第1部) BRTの事業計画について等 (第2部) おもてなし実行委員会の活動報告等 (第3部) 大会後のまちびらきを見据えた体制づくり 晴海5丁目まちびらき後の体制等について
第4回	平成30年12月16日	晴海区民館	(第1部) 晴海地区における歩行者ネットワークの 整備方針について等 (第2部) おもてなし実行委員会の活動報告等 (第3部) 晴海地区全体における運営しやすい体制について (その他) 平成30年度晴海地区将来ビジョンの とりまとめについて (素案)
第5回	平成31年2月24日	晴海区民館	(第1部) 晴海地区地区計画の変更手続き開始等 (第2部) ほっとプラザはるみリニューアルについて (第3部) 平成30年度第四回晴海地区将来ビジョン推進会議 (第三部) の意見まとめ (その他) 平成30年度晴海地区将来ビジョンの とりまとめについて (案)